

全ヤ

NO. 194

1 / 49



アジア仏教圏の交流

仏祖の遺蹟に日本寺が建立された。これほど日本仏教徒にとって喜ばしいことはない。仏教が世界の宗教であると言っても、やはりアジアを中心とする宗教である。それにもかかわらず、この仏教諸国間の交流が必ずしも密接でないのはまことに残念である。今や小乗、大乘を超えて、すべての仏教徒は仏陀の原点に帰って団結すべきときである。アジア諸国の民族自決の指導原理、そしてアジア・ナショナリズムは仏陀の精神を基調として世界にのぞむべきである。アジアの開発と平和は世界の進運に繋がるからである。日本寺の建設を単なる施設に終らせてはならない。これを機会にアジア仏教圏の交流と提携を一段と強化したいものである。(S)

(写真はインド・ブタガヤの日本寺落慶法要)

四十九年の年頭に思う

きである。

いまや、世界平和は人類の掛声とはなっておるけれども、中近東、極東の極地をはじめ部分的な戦争が絶えず、欧米先進国においては軍備縮小を口にしながらさらに、原爆実験等を強行しておる実情である。これに対してわれわれ仏教徒は日本国憲法の根本の精神が示す如く、恒久平和を現成すべく努力したいものである。(曹洞宗管長・永平寺貫首)

全日本仏教会会長

佐藤 泰 舜



わが全日本仏教会の結成二十周年を迎え、その形態、組織、教化、活動などがほぼ体裁を整えて、昨年は池上本門寺においてその将来の発展を祈り記念した次第である。

さらに、特筆大書すべきことは、国際仏教興隆協会を通じてインド・ブダガヤの聖地に日本寺を完成し、旧臘十二月八日を中心に十五日間、その落慶法要を営んだことである。

日本寺の建立は他の仏教諸国よりも手後れはしたけれども、その建築は堅牢であり、その規模は雄大であり、内装は純日本式である点が最大の特徴である。

さて、一九七四年度を迎えて、わが全仏は従前の活動を一層進展すべきは勿論であるが、新年度よりも対外的な活動に一大飛躍を試み、南北朝鮮、中国をはじめ

め東亜諸国に呼びかけて、仏教徒としての自覚と活動に精根を傾けたいものである。それはただ仏教を讃仰するにとどまらず、仏教徒として国際的な平和、常に融合を大目標として実際の活動を進むべ

全日本仏教会理事長

末広 愛 邦



皆様御機嫌よく新年をお迎えのことと謹んで御慶び申し上げます。

私は昨夏俄かに理事長に御推挙を蒙りましたが、全日本仏教会の名と責任は重たいと思います。それは日本でお互いが感じているよりも、外国に出て諸宗派と対面してみるとよくわかります。使命の重いのには比較して現実の全仏がどんなものであるか、これをどう動かすべきであるかと言うことについては、創立当時から今日に至るまで先輩の御苦勞下さった問題であります。原因は参加している団体

の大小によるのかも知れない、経済問題にあるのかも知れない、直接携わる人の不適の問題かも知れない、忙がし過ぎるのかも知れない。現実にはこうした様様の問題があろうが、根本的には仏教人が真に宗教的使命に自覚と実践がどの程度あるかのように思われます。

現在の大家は物質文明に酔うて精神の匿題を忘れていと言われているが、皆んな苦惱をもっています。個人としての生死の問題から家族制度の問題、青少年の問題、世界平和の問題、世界人口問題等と際限もなく多くの問題に当面しその解決を求めています。それに応え解決するのが仏教徒の使命でありましょう。

今年も相互に親睦を図ると共に、相協力してこれらの問題と取組んでまいりたいと念願しています。格別の御仁配をお願い申し上げます(真宗大谷派宗務総長)

謹賀新年

財団法人

全日本仏教会

- 会長 佐藤 泰 舜
- 副会長 金子 日 威
- 理事長 梶 浦 逸 外
- 常務理事 末 広 愛 邦
- 理事 一 一 一 一
- 監事 一 一 一 一
- 評議員 一 一 一 一
- 事務総局
- 事務総長 麻 布 照 海
- 事務次長 桜 井 大 乘
- 総務局長 樽 淵 正 浩
- 組織局長 新 間 信 雄
- 国際文化局長 柳 了 堅
- 財務部長 和 田 龍 宏
- 庶務部長 小 峰 令 丸
- 組織部長 岩 脇 宏 信
- 国際文化部長 黒 川 孝 樹

- 他
- 関西事務局
- 事務総長 有 馬 清 雄
- 組織部長 禿 馬 諦 住
- 国際部長 白 幡 憲 佑
- 教化部長 山 家 惠 誠
- 審議部長 後 藤 純 一
- 総務部長 北 島 経 昭
- 他
- 職員 北 島 一 同
- 職員 黒 川 孝 樹
- 職員 岩 脇 宏 信
- 職員 小 峰 令 丸
- 職員 和 田 龍 宏
- 職員 柳 了 堅
- 職員 新 間 信 雄
- 職員 樽 淵 正 浩
- 職員 桜 井 大 乘
- 職員 麻 布 照 海

インド日本寺の落慶式

大法要に参列して

全日本仏教会
事務次長

桜井大乗

ギリ大統領閣下以下、政府高官並びに駐印仏教関係諸国の大使、仏教徒代表等多数の来賓を迎えて、イン

十二月八日、全日本仏教会は釈尊正覺（成道）の聖

日を下して、佐藤泰舜会長猥下（曹洞宗管長）八十三歳の御高齡をもって徳々遠路渡印せられての御親修のもと、印度国

ト山日本寺の落慶式が実に盛大かつ厳粛裡に厳修されました。

日印兩國にとって誠に意義ある法要であり、仏教を通じての兩國親善を益々深め、世界平和へ多大の貢献をなすものと信じて慶びに堪えない次第であります。

落慶式は、大法要と式典の二部に分けて厳修されました。

佐藤猥下大導師に厳修

あけの明星が太陽の輝きに姿を消したこの朝、大塔わきの大菩提会前広場に整列した法要団は、八時五十分、チベット僧の打ち鳴らすドラの音を先頭にお練供養で法要は開始されました。

会奉行、のほり、随喜する外国僧侶団二十名、式衆とつづき、おみ足の都合で佐藤猥下に代って金子随行長の代理導師をまもって全仏法要団三十名余、曹洞宗法要団百九十名余があとに続きました。

行列は約三十分で日本寺に到着。回廊をめぐって本堂側面から入堂、所定の場所にそれぞれ着座し、法式は中央曲縁に

日本寺と法要に参集した人々

掛けられ佐藤猥下を大導師に曹洞宗式衆二十名によって営まれ、大導師の敬白文、法語、誦経、回向にて終りました。つづいてチベット僧による誦経とその他のセイロン、タイ等の外国僧合同の誦経があつて、最後に大導師の御垂示を頂いて第一部法要の全部を終了しました。

敬白文

敬テ三世十方常住一切ノ三宝ニ白シテモウサク。今方ニ南閩浮提印度毘波羅州伽耶、如来成道ノ聖地ニ就イテ、財団法人全日本仏教会普ク日本国内十方有縁信心ノ施主等ノ誠心ヲ集シテ、新二僧伽藍ヲ建立シ印度山日本寺ト号ケ、仏陀成正覺ノ聖日ヲトシテ落成慶讃之勝儀ヲ厳修シ以テ大聖釈迦牟尼世尊之萬徳ヲ讃仰シタテマツラントス。

夫レ惟ミルニ幻化ノ境界ハ転変ヲ免レズ、泡沫ノ五蘊ハ終ニ是レ無常ナリ。是故ニ金口ノ誠言ヲ仰ギ当来ノ善根ヲ積ム謂フ可シ百歳以前是レ愈ラザレバ百年已後必ズ安樂ナラン。祖師ノ曰ク変ヲ慕イテ道ヲ耽シムノ跡。沙ヲ握テ寶ト為テ、猶シソノ驗アリ形ヲ摸ドリ礼ヲ瞻ス、屢々ソノ感アラハル。測リ知ヌ。信心ノ施主等現世ニ諸難消除ノ園ニ遊ビ当来ニ万徳ノ台ニ登ランコトヲ。

翼クハ仏日輝ヲ増シ法輪恒転、密土ノ群生悉ク仏陀広大ノ慈恩ニ浴シ以テ萬邦和楽シ無為ノ楽土ニ逍遙センコトヲ。

維時昭和四十八年十二月八日落成慶讃
吉辰
財団法人全日本仏教会会長

曹洞宗管長勅賜直指円性禪師佐藤泰舜

敬白

法語

竺土初開日本寺 法輪永転仏陀蹤
梵器響天靈氣鐘 須禱和光徹万峰

恭落慶祝禱謹奉報広大四恩

ギリ大統領臨席の式典

印度国ギリ大統領臨席のため、早朝より軍隊、警察によって厳重なる警戒がしられ、大統領歓迎のため日本寺に到る沿道に群集せる民衆は五千名以上であつて日章旗、インド国旗の小旗が手に手に振られ、日本寺落慶の祝意はブダガヤ天地に満ちたのであります。

本堂内に大導師佐藤猥下以下二百名にも及ぶ僧と来賓各位等着座して、大統領

閣下の入堂を待ちます光景は、真新しく仏具荘嚴燦然と輝く十間四面の大本堂も立錫の余地なき有様でありました。

本堂前においては、国際仏教興隆協会 巖谷理事長、稲田稔界実行委員長、麻布全仏事務総長、金子随行長、駐印榎本公使等が整列し、その傍らには軍楽隊が整列して出迎えの中、時間が若干遅れて正午近く、半鐘の打鳴らす合図とともに大統領の到着にて式典が開始されました。

インド国歌が吹奏される中、歓迎の挨拶を受けられた大統領は、まず巖谷理事長の案内で鐘樓堂に上り、真新しい撞木を手に梵鐘の撞き初めを行いました。その鐘の音は、日親親善さらには世界平和への願いをこめて、釈尊成道の聖地に響きわたっていききました。

堂内で打ち鳴らされる大太鼓の音とともに本堂正面に進まれた大統領は、紅白にはられたテーブにはさみを入れ、自らの手で本堂正面の扉を開かれた。と同時にこの開堂式を祝して境内からはドンドンと火花が打ち上げられて、セレモニーはいやが上にもその緊張の度が高まり上げられていきました。

大統領、来賓関係者の着座を待って読経がはじまり、大統領は本尊前に出て献香献華をされました。このあと席に戻られる時、大統領は佐藤猥下の許に歩みよる握手を求められ、お祝の言葉をかけられたのです。まことに感激の一瞬でありました。

終ってミシユラ式典委員長、巖谷理事

ブダガヤの通りを全仏法要団のお練り



「コン（誘導電波）の働きをもっています」と結ばれ、参列者に深い感銘を与えられました。この祝辞は、また大統領のビハール州初訪問とあつて、ラジオ中継されていたのであります。

つづいて佐藤会長猥下が「聖地ブダガヤに日本寺が建立され、この落慶式に大統領の臨席を得て営みえましたことは誠に有難いことです。この際を期して世界各國に釈尊の眞精神を伝え、もって眞実なる世界恒久平和をもたらすよう一層努力したい所存であります」とお言葉され、おわりに「大統領も私と同じ八十三歳とうかがって感激しております。大統領の益々の御健康を祈り、インドの皆様感謝の意を捧げます」と結ばれました。

最後にガフル・ビハール州首相が謝辞をのべると、再びインド国歌が吹奏され、皆の拍手におくられて、大統領は日本寺をあとに車でお帰りになりました。

かくして日本仏教徒の宿願であつた釈尊の聖地インド・ブダガヤに日本寺建立の落慶法要は無事円成したのであります。日本寺の存在は今後、風俗、習慣、言語等異なる日本と印度との民族が、同じ東洋民族として、釈尊の御教を信奉することによって両民族の親交を益々厚からしめ、両国の平和と興隆の基となるべきものと信ずる次第であり、日本仏教徒として今後の印度山日本寺の発展と興隆に一致協力寄与すべき重大な責任を心に誓うとともに、日本寺が益々発展せられんことを冀う次第であります。

祝辞を読み上げるギリ大統領



(一)

改歳の始めに祝意を表するのは、どこ
の国も、そして今も昔も変りはない。無
事に一年を過ごし、今また希望に満ちた
新しい年を迎えることはこの上ない喜び
に違いない。今では満で齢を算えるから
正月だからと言って皆なが同時に加齢し
たことにはならないが、少くとも昨日よ
りは年老いたことには間違いない。した
がって元旦は死出の旅路の一里塚だとも
言えるし、釈尊



真 溪 義 貫

いては意欲を燃やすが、老化とか加齢の
問題になると魅力のない研究課題のよう
に考えていたようである。

人間百万年の歴史の中で、漸くここ十
年足らずの間で加齢とは何か、老化の仕
組とはどのようなものか、つまりエージ
ングの科学が脚光を浴びて来た。現在日
本人の平均寿命は男七〇・一七歳、女七
五・六八歳と延び、老人人口が激増の一
途を通り、老人対策が必要欠くべからざ
る問題となったのも、老化の科学が取り
上げられて来

たためかもし
れない。

ともあれ今
日まで加齢
(老化)の問
題は複雑でど
こにも手がか
りが見られな
いと思われて

を苦と観じ、そ
の苦から解脱す
る道を求められ
た。金子大栄師
が何かの雑誌に「生きるよろこびにあり
て死の静けさを想う、そこにこそ名残を
惜しむ今日がある」と書いておられた。
このような心境で新年の始めを深く味う
ことが本当かもしれない。

ただ私は、この死に繋がる加齢という
ことが抽象的に当然の法則と受けとられ
ているのか、その仕組について今まで学
問的な研究が行われていないことを不思
議に思っていた。例えば、生物学者など
でも短時間のうちに細胞がめまぐるしく
分化分裂するような初期発生の過程につ

いた。しかし、最近細胞生物学や分子生
物学、或は放射線生物学に基礎をおく新
しい生物学が進展してきたことにより、
加齢もまた自然界の一般的な法則に従っ
てその機構、仕組を解明し得るといふ確
信がもたれるようになった。もちろん加
齢といっても、その生体を構成する細胞
の性質によって異り、ヒドラのような細
胞再生系、昆虫のような細胞非再生系、
脊椎動物のような複合系等それぞれ老化
の仕組を異にしている。また動物と違っ
て植物の場合は、遺伝的に定められたフ

ログラムのみで加齢するのではなく、環
境の物理的・化学的条件によって調節され
る度合いが多いと言われている。特に植物
にあっては部分の老化や死は、個体の老
化や死とほとんど関係がないということ
である。

(二)

加齢の仕組が解明されてゆくことによ
って宗教の生命観や世界観がどのような
影響を受けるかが、仏教界にとっても今
年の新しい問題の一つだと思ふ。

一八五九年ダーウィンによる「種の起
源」の発表は十九世紀におけるヨーロッ
パの一大衝撃事件であった。生物のそれ
ぞれの種は、聖書にあるような神によっ
て創造されたものではなく、自然法則に
よって現在の形に発展したとする進化論
は、完全にキリスト教の神を否定したの
だった。つまり未来は、進化という自然
法則にしたがって必然的に出現してくる
「未来」でしかないとする進化論の前
に、神も仏も、そして人間が作り出した
未来観はすべて崩壊し去るわけである。

しかし、明治十年、モースがこの進化
論の紹介講演を日本人に行った際、むし
る聴衆はひどく感激し最新科学理論を向
の抵抗もなく受け入れたと伝えられてい
る。ここに日本人の思想がよく表わされ
ている。つまり動物も人間も共に自然の
一部であるとする自然に対する同位的な
共有感を日本人は持っていることを示し
ている。また一九〇五年にアインシュタ

インが相対性原理を発表し、宇宙の中に
絶対静止の座標は存在しない、ただ相互
に静止しているか、相互に等速運動か加
速度運動をしているだけであるとした。
ハイゼンベルグは不確定性原理を発表し
物質の最小単位とされている素粒子は瞬
間にして生れ瞬間にして死すもので、そ
の運動について位置と速度を同時に知る
ことは出来ないとした。このように不動
の超越的絶対的基準はあり得ないとい
う理論が次々に発表され、キリスト教的神
学は音を立てて崩れ去ってゆく。しかし

仏教は物も心もこの世界そのものも実は
存在しない、宇宙間の諸現象はいくつか
の諸要素が結び合い交錯することによ
って顕現されるとする。従って諸々の顕
現される現象の展開を左右し得る主体が
なく、従って無我であるという。
希望をよせて迎えた新年に当り、こう
して元気に生きている、そして物を見た
り、感じたりしている自己の存在を認識
し、より高い認識と解脱へむかおうとす
る心境こそ仏教徒の真の姿ということに
なるだろうか。加齢のメカニズムは科学
的に解明されつつある。しかしどうもわ
れわれの遺伝子そのものに老化の因子が
組み込まれているようであり、生命現象
の発電所であるDNAへの外部からの損
傷を少なくすることだけが延命の策であ
るとするならば、この道理をわかまえて
つ苦悩と迷妄の輪廻から解脱する仏教の
真髄に徹し加齢を味わう年頭としたい。

(文化専門委員長)

今年の仏教界に望む アンケート

仏徒としての覚醒

曹洞宗宗務総長 山田 義道

目先のことだけに眼をとられ、目に見える事業の企画に明け暮れる前に、仏徒としての覚醒を求めよ。

人間性回復の大運動

参議院議員 永野 鎮雄

物質文明の幻想的幸福に酔いしれた人たちがやっと目を覚まし始めた。今こそ仏教界こそ立ち上がり、自らの立場を鮮明にして、社会にむけて発言をし、人間性回復の一大運動を展開されんことを希う。

全国民にアピールをし、それが伝道に繋がるような運動として企画されたい。

危機救う政治家を

東京都仏教連合会会長 栗本 俊道

旧冬、友松円諦、常光浩然両師を失い全仏発足当時の関係者ほとんど全員西化された今日、全一仏教運動に挺身された方々に酬答して、その原点到還り、宗派と県仏の連携による飛躍的展開を望み、

高度経済成長が仏教精神を忘れた今時代の危局、人類の危機を救うために仏教運動に理解あり協力的な、そして考えは宏遠に、行動は現実的な政治家の進出を要望する。

関西事務局の積極的努力によって、本年の全日本仏教徒会議を関西で開催し、昨年東京池上本門寺大会のように、宗派代表者会議と地方仏教会代表者会議を主軸とする大会を希望し、その実現を期待するものである。

ものを大切にしよう

滋賀県仏教会会長 木辺 宣慈

敢て仏教界だけとは申しませんが、すべての人が勿体ないという心持ちを取り戻すことです。地球は存外小さく、資源は限りがあります。

仏教界運営の若返り

知恩院庶務部長 白幡 憲佑

国民生活は戦後最大の転換期を迎える。日本人の精神面の充実が国家的な課題となってくる。然し仏教界が相変らず抽象論的な教化を繰返している限り現代

人は仏教を必要としないだろう。仏教界は先ず社会を常に意識していなければならぬ。坊さんの相互共済組合の如き宗団は不必要である、坊さんの福祉共済などを宗団が考えていること自体に宗団の墮落がある。何故、人類の福祉の為に宗団は全力投球が出来ないのか。そして仏教界運営の若返りを実行したい。宗団仏教会の中心は五十歳以下で運営企画に当るべきで、経験豊かな老僧階級は教化の師表になって頂きたい。仏教界の結集は現代に生きる使命感の躍動以外にはない。

宗派超えた社会運動

経済評論家 斉藤栄三郎

道義の頹廃を救うには、仏教精神による以外に道はありません。宗派を乗り越えて、社会運動を展開する必要があります。

一笠一杖に立ち還れ

福岡県仏教連合会 杜多 繁円

めまぐるしい動乱の今、いよいよ人間本然の深層から生きることの真なるもの

が、否応なしに問いつめられてきていることは、その自覚の如何にかかわらず火がついている。その証拠には凡百の科学文明最高の文化圏の各国にも、所謂禅宗における参禅道、真宗における本願念仏の親鸞ブームが、その教団のあるべき姿も問題にもせず、潮の如くその真なるものを採求せずにはおられぬ究極に立ちつくしている。その焦眉の人間回復の火口に立ちながら眼を掩い耳を塞がずにはおられぬ各宗団の逆転たるやまたいかん？

今や生死巖頭にたたしめられた現前一念の時、われら仏教徒は釈尊入山の悲願にたち、道元、日蓮、親鸞の初一念の、おのがじじなる火をも越えたるあの姿に生れ変わる一大転機の火の玉とならまほし。そこには仏教各宗派のあまりの俗悪極まりなき絢爛たる、またその僧形の虚飯不実に泣かざる。よろしく堂塔伽藍の偉容を捨て、一笠一杖の托鉢行願にたつて、以て釈尊教法の遺弟なべて悲泣奮起せざるべけんや。嗚呼、われ人、一人一人道元に、日蓮に、親鸞に、ならまほし、ならまほし。南無、合掌。

宗教性ある政治実現

本願寺派光隆寺 吉田 秀英

一、全仏は過去の少異に拘泥せず、新宗連等の民主的仏教宗団と懇談し提携するの体制を作りあげること。

一、公書と物価高から大衆のいのちと生活を守る宗教性ある政治実現に全仏教界が立ち上がることを、これが仏教宗団の現

実的、今日的課題であることを深く自覚したいものである。

一、仏教集団乃至仏教徒が真に日本の平和を望む心が真実ならば、靖国神社法案に統一ある反対の体制を確立すべきである。

法を説くのがつとめ

葉師寺管長 高田 好胤

出家たるもの、在家のような妻帯肉食をしてはいても、マイホームにおちいつてはならない。修行して法を説くことが大切な私共のつとめと存じます。

釈尊の時点に戻って

作家 寺内 大吉

全仏教徒がもう一度釈尊の時点に戻って、大同団結の決意をもってもらいたい。これが急速には実現が望めないにしてもこの年に半歩でも一歩でも踏み出してほしい。ことに教義的な面で王舎城における第一次結集のような大会を開き、仏典の根本的な究明をやり直すべきではないだろうか。

仏教の大衆化運動

文化専門委員長 真溪 義貫

宗教書、特に仏教についての書物が大変よく読まれるということである。これは、やはり人間の危機がひしひしと身にしみる現代の環境から如何に生くべきかを仏教に人々は、求めているからだと思

う。それほど仏教には深い真理が包摂されている証拠である。にもかかわらず仏教が社会から遊離し、大衆から見離されていくのは何故だろうか。葬儀や法要で経済的に一応安定している寺院は一向に本来の伝道には心を配らないし、安定のない寺院は生活の手段を他に求めて寺院は荒廃にまかされている。寺院はもとより教団身ぐるみ大衆の手に返し、私有化、企業化を排して僧侶は一伝道師として布教に専念すべきである。日本には仏教博物館があっても、大衆と共に生きる仏教のないことを嘆かざるを得ない。寺院を超え、宗派を超え仏教そのものの大衆化運動こそ望まれる。

仏教大会の大衆化

元大正大学長 佐藤 密雄

宗派外の、在家仏教、仏教伝道センター、真理運動、真如会等の諸仏教団体の連絡統一を計って、寺院仏教である全仏と連絡づけ、相計って年次仏教大会の大衆化を計るべきであると考えます。

妙観察智を養いたい

文化専門委員 若林 隆光

ひとさまに望むという意味ではなく、非常の世相に惑わぬ妙観察智を養うよう

努めたい。

混乱の人々の救いに

曹洞宗信松院 西村 輝成

今年の社会問題は何といつても物価の昂騰と物資の不足です。つい昨日今日までは消費は美德と囃られつつけてきた国民が一夜明けてみれば、掌を返すように物不足に見舞われておろおろとし、唯に節約を強いられる始末です。

さて、私たち仏教者は元来物を大切にすることを厳しく躰けられてきました。余った一掬の水を井戸に戻した話。小川に流された一葉の葉をどこまでも追いつけた老僧の話。万物を仏の命と観て尊ぶ。この仏教の精神はどんな世相にも変らず、今こそ仏教界は混乱しきった人々に教示する年ではないでしょうか。

報恩感謝の念涵養

山梨県仏教会理事長 井村 胤心

物価高騰の上、日用必需品不如意の折柄、粒々皆辛苦一寸光陰不可軽等々の觀念なく、仏菩薩を始め先祖代々等に対する感謝の念絶無に等しき今日こそ報恩感謝の念を涵養せしむべく、仏教者の努力精進すべき秋と痛感いたします。

僧侶は新聞に投書を

相模工大助教授 佐伯 真光

僧侶は新聞に投書しよう。アメリカの新聞を読んでいると、投書欄に聖職者の投書が多いのに気づきます。

ところが日本では、めったに僧侶の投書にお目にかかれませんが。反対に仏教寺院や僧侶を誹謗する投書がしばしばつています。そして仏教側の反論がのることは稀です。僧侶は社会のオピニオン・リーダーであるべきです。

今年全国の仏教僧侶が新聞に投書をおくり、社会に訴える年にしようではありませんか。私はペンの力を信じています。

街頭の大衆と共に

安田生命相談役 竹村吉右衛門

仏法は、街頭に出て凡愚の大衆とともに在って頂きたい。

世界の日本仏教に

国際専門委員 新美 孝道

全仏のあゆんだ二十年を回顧すれば、わが国の仏教界は全仏を中心に大飛躍を決定して、世界的な日本仏教界になっていただきたいと念願するものであります

アンケート 今年の仏教界に望む

昭和49年1月1日

各宗・各山で建築ブーム

インドの日本寺 はじめ目白押し



輪閣、曹洞宗宗務庁舎等々目白押しで、加えて智積院金堂の建設もはじまり、ちよっとした建築ブームで、その完成は教化伝道の道場として一段の活動が期待されている。

本願寺国際センター
本願寺派が親鸞聖人の誕生八百年、立教開宗七百五十年の記念事業の一つとして、海外教化活動をバックアップする拠点として、本山正面東側に総工費一億二千万円をかけて建設したもので、地下一階地上四階、四二〇平方メートルの鉄筋コンクリート造りのもの。今後は留学生の開教の人材育成、仏典の翻訳研究、海外開教区との事務連絡等の活動を行う。

昨年の各宗各山では御遠忌、開宗等の記念行事が盛大に営まれたが、同時に建築も数多く行われ、後半でもインド日本寺の落成をはじめ、浅草寺五重塔、川崎大師信徒会館、東山淨苑、万福寺の黄檗文華殿、泉涌寺妙応殿、四天王寺見真堂等が竣工、さらに今年に入って完成もしくは進行中のものも数多く、増上寺本堂、薬師寺金堂、長谷寺菩提院、成田山光

黄檗文華殿 黄檗宗万福寺が宗祖隠元禪師の三百年御遠忌の記念として、総工費一億円で完成させたもので、鉄筋二階建四四五平方メートル、一、二階ともにホール、展示室、収蔵庫を備えている。日中交流

の接点としての黄檗文化が注目される折、同本山のそういう内容の什宝を陳列するといふ。

川崎大師信徒会館 弘法大師生誕千二百年慶祝の昨年十一月、めでたく竣工された。総工費十億円をかけた同会館は、鉄筋コンクリート造地下一階地上四階、五三六九平方メートルで、地下一階は大日如来を安置した大講堂となっており、四百名近くを収容する。一階ロビー、ステンドホールは東壁一面にヨココト、タテコトの成道と涅槃のステンドグラスがはめられ、信徒が自由に休憩できるようにになっている。二、四階には大中広間をはじめ、お茶、お華、日曜学校等の文化教室を備えている。【写真はその信徒会館】

東山淨苑 親鸞聖人の謄法要に当り大谷光暢法主の発願によって着手、財団法人真宗大谷派本願護持財団が護持管理する東山淨苑は、いわゆる現代のお墓、

結成なった韓国仏教会

文理事長
が来局

新たに結成された韓国仏教会の文東賢（朔換）理事長が、さる十二月五日全仏事務局に来局され、柳国際局長らと懇談した。文理事長は大阪で開かれた日韓宗教人協議会創立のための予備打合せ会に参加のため来日したその足で、李能嘉氏の案内で表訪問されたものである。韓国仏教会はさる五月、韓国政府がす

すめている維新事業の一翼をにない、仏教徒も各宗派の利害を超越して国策に即応しようとする各宗派代表が集って協議をすすめ、ここに十八宗派の連合体として誕生、同国仏教史上はじめてのことである。これにより従来の大韓仏教総連合および韓日仏教親善協会は発展的に解消されその仕事は韓国仏教会に引きつがれた

新役員は次の各氏
 会長 孫慶山（曹溪宗総務院長）
 副会長 安興徳（太古宗総務院長）
 理事長 文翔煥（円仏教々議会議長）
 事務局長 金光泰（前大韓仏教総連合会事務総長）

なお、韓国仏教会は現在社団法人として申請中で近日中に認可されるとのことである。また、明年ソウルでWFB大会の開催が内定しているが、WFBには韓国支部として曹溪宗を母体に加盟しており、韓国仏教会即WFB韓国支部でないで、その辺の調整が今後の問題として残されている。

ふるさとの仏事



おん顔の 三十路人なる 寝釈迦かな
 草田男
 「まだ寒いわねえ」などと言いながら集って来た婦人会員、というよりはおかささん達持寄りの米の粉が寺の台所に一杯になると、誰からともなく「そろそろ始めようか」となっていることは始

信濃路のねはん会

まる。熱湯をそそいだ粉が耳たぶぐらいの堅さにと、先輩の指図でこねられる頃には、絵具をとくものや、胡麻を煎るもの等、それぞれのなれた持場で噂話と原料を半々にこね合わせる位の勢でにぎやかに、やがて横に細い熊笹の棒かなにかで囲みをつけて、せいろうで蒸し上げられるとそれで出来



来局した文理事長（右から二人目）

NHKの歳末助け合いに献金

東京フティストクラブ

恒例となった東京フティストクラブ主催の成道会記念の「チャリティショー」が十二月一日午後五時から東京赤坂プリンスホテルで開かれた。

第一部は成道会音楽法要で、築地本願寺雅楽同好会による雅楽が演奏されたあと、白いドレスにキャンデルを手にした武蔵野女子大の聖歌隊三十名により献灯

献華が行われ、同クラブ旗本リーダーの導唱により三帰依文を唱和、池坊専永氏がおもいやりの気持をもちましようとな話をされて、参会者四百五十名全員で釈尊の成道を祝って終了した。

第二部はショータイムとして、テレビでおなじみの東京二・京太の軽快な司会により、東京キューバンボーイズの演奏をバックに森山良子のすばらしい歌声を楽しんだ。そのあとはハワイ旅行を特賞とする三角くじによる抽選会が賑やかに行われたが、この日の純益金は、NHK歳末助け合い運動、あそか病院、赤坂少年院にそれぞれ献金された。

上がった。
 なせそういうのか誰も知らないやしようまは毎年、これはやせ馬の訛ったものだという和尚の説や、「やっしゅうまかった」とお釈迦さまがおっしゃったからだというおやじの珍説などはかかわりなく、ごねはんの絵像の前に供えられる。和尚さん達のお経や、絵芝居なども上の空に待って子供たちには、さっき横目でいらんでおいた灰色の棒が、赤や青の渦巻き入りや胡麻の模様入りの薄い小判形やきんちゃく形になって表われるのが不思議でたまらない。

ういった所もないが忘れられないなつかしい味。

やがてお話もおしまいになって母親とつれだって家路につくときには、ふところ一杯のやしうまが包み紙ごしに胸やおなかをつつくのだ。薄味でど
 信濃路のねはん会は今もどうやらこのように行われている。だが近年は手づくりでなく、お菓子屋さんで売っている出来台のものを買って来てお供えしてしまう方が多くなりつつあるとか。「徒然草」には著者がまだ宮仕えしていた頃詣でた千本釈迦堂のねはん会で、宮のはかりごとではあったが、すぐれて姿・匂の美しい女房に恋を持ちかけられてようやく逃れた条がある。太平洋戦争の米統制以来、忘れかけられている各地のねはん会を再興して、徒然草の昔のように、若い男女も聴聞する花やいだ集まりには出来ないであろうか。(W)【写真はインド・クシナガラ涅槃寺のねはん像】

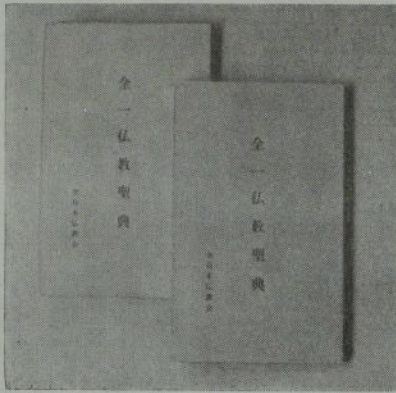
東仏成道会

にぎやかに二百
数十名が参集

東京都仏教連合会では、十二月八日、午後四時三十分から上野東天紅を会場に「第八回お悟りを讃える集い」を、全日本仏教婦人連盟の協賛のもと開催した。

正面に法輪を掲げた会場には、二百数十名が参集し、郡司事務局長の司会により全員で三篇依文を唱和して釈尊成道を讃え、世界平和を念じて黙想をした。

つづいて栗本会長より挨拶がなされたあと、日本寺落慶法要団の結団式が行われ、小藤寛澄団長以下二十五名の団員が紹介され、東仏二千五百か寺より花束が、全仏新聞局長より仏旗がそれぞれ贈呈された。一行は特にアグラの救ライエスターを訪問するという。東仏では過去五年間に一千万円余を同センターに献金



している。

予定されていた記念講演は講師のお体具合で中止されたが、壮行の宴も兼ねた清餐に入ってから賑やかに会員相互の親睦を深めながら盛会裡に行われた。

「全一仏教聖典」 を利用しましょう

各宗派合同の集会等で読誦できる経典がほしい—という多くの要望のもとに、全仏が各宗で常用している経典をまとめて「全一仏教聖典」として発刊し、各方面から好評を頂いていたが、新たに体裁活字等を改め、仏教聖歌も加えた再刊本を現在頒布しているのでご利用いただきたい。

大きさは新書版二〇二頁、糸かがりとして、頒布価格は二百五十円。送料別。内容は、第一部「勤行式」。懺悔文。三篇依文、開経偈、四弘誓願、成仏偈。第二部「諸宗聖教」。正信念仏偈、普門品偈、般若心経、光明真言、自我偈、理趣経百字偈、金剛経偈、嘆仏偈、修証義。付録「仏教聖歌集」

本篇の使用にあたっては集会の目的、参会者、時間等を参酌して、例えば、三篇依文、開経偈、般若心経等と次第し読誦していただきたい。

写真は好評の「全一仏教聖典」

おめでと〜ございませう

財団法人 日本仏教鑽仰会

理事長 中山理々

神田事務所

〒101東京都千代田区内神田二ノ三

ノ五 鎌倉ビル

電話〇三二二五六一四九二一

曹洞宗 永平寺

貫首 佐藤泰舜

副貫首 山田 靈林

監院 宮崎 文輝

他 役寮 一同

新潟県仏教会

会長 土田 真也

副会長 井上 憲司

〃 豊田 良瑠

〃 西塔 政舜

曹洞宗 総持寺

貫首 岩本 勝俊

副貫首 乙川 瑾映

監院 成田 芳髓

他 役寮 一同

謹賀新年

昭和49年

大本山

成田山新勝寺

千葉県成田市成田
電話〇四七六一三一二二二

大本山

川崎大師平間寺

貫首 高橋隆天
川崎市川崎区本師町四一四八

浄土宗
総本山 知恩院

〒605京都市東山区林下町
電話〇七五―五三一―二二二一

東京本願寺

〒山東京都台東区西浅草一―五―五
電話〇三―八四三―九五二一

総本山 四天王寺

〒543大阪市天王寺区元町一七

青森県仏教会

会 長 上田頼石 (対泉院)
事務局長 吉川正英 (願榮寺)
理事 秋田 (妙現寺)
理事 大和女悦 (長流寺)

〒336浦和市高砂四丁目一三一―八

財団法人 埼玉県佛教会

会 長 石川隆惇
副会長 石塚大喜
" 大島見道
常務理事 北之内真竜
電話〇四八八―六一―二三三八

京都府仏教会

会 長 梶浦逸外
副会長 渋谷有教
" 沢崎梁寿
" 横井鶴洲

愛知県仏教会

会 長 藤井香嶺
事務局長 村瀬良彦

謹賀新年

昭和49年

社団法人

全日本仏教婦人連盟

会長 大谷 智子

副会長 一条 智光

〃 岡野 貴美子

理事長 山本 スギ

事務局長 船口 暉子

事務局

〒156東京都世田谷区桜上水
四一九一七

東京都仏教連合会

会長 栗本 俊道

常務理事

荒川 大信 岩崎 宗秀

小熊 寛澄 大伴 好雄

会谷 和夫 小峰 順誉

郡司 博道 清水 順碩

関 確元 桜井 大乘

新川 日見 豊田 英世

水野 直行 村瀬 博道

吉水 現祐

監事

大久保良順 北川 有光

関岡 賢一

事務所 東京都北区西ヶ原三ノ一

二ノ六 昌林寺中
電話〇三一九一五―二五七〇

事務局長 郡司 博道

〃 次長 花木 義光

〃 主事 田中 勤 日吉清規

真言宗豊山派宗務所

管長 鳥居 敬誉

宗務総長 築山 定誉

総務部長 浅井 堅教

財務部長 久保 太清

教化部長 高山 有進

教務部長 大沢 聖駒

〒112東京都文京区大塚五―四〇―一八
電話〇三一九四五―〇六三九

曹洞宗々務庁

管長 佐藤 泰舜

宗務総長 山田 義道

参議 田辺 哲崖

参議 宮前 鳳洲

総務部長 田中 亮三

教化部長 小形 大禅

財政部長 伊藤 治雄

社会部長 島田 久成

教学部長 糸柳 格道

広報室長 永井 孝道

秘書室長 大竹 明彦

謹賀新年

昭和49年

天台宗務庁

大津市坂本町
電話〇七七五―七八―二二一八

宗務総長 神原玄祐

庶務部長 梅山円了

財務部長 田中俊晃

教学部長 幹 覚盛

社会部長 上野智信

総務室長 守山俊朝

一隅を照らす運動

事務局長 生田孝憲

真宗大谷派

法主 大谷光暢

宗務総長 末広愛邦

参務 土肥 浩

参務 福島昭信

参務 後藤契雪

参務 榎原信暁

参務 土肥惠恩

総務部長 禿 諦住

〒600 京都市下京区烏丸七条上ル

真言宗醍醐派

宗務本庁

管長 細川英道

宗務総長 岡田宥秀

庶務部長 藤原良典

教学部長 斉藤明道

財務部長 岩城秀雄

〒601-13
京都市伏見区醍醐東大路町三二

日蓮宗

管長 金子日威

宗務総長 渡部公允

新義真言宗 総本山根来寺

座管 長 関 尚道

宗務総長 下平耕道

謹賀新年 昭和49年

聖観音宗
金龍山 浅草寺

管 長 清水谷 恭順

宗務総長 壬生 台舜

妙見宗々務本庁

宗務総長 青木 法鷹

〒563-01 大阪府能勢郡能勢町野間
中七一八 本滝寺内
電話〇七二七-三七一〇〇二八

神奈川県仏教会

鎌倉市小町一ノ十二ノ十二
本覚寺中
電話〇四六七-三二一〇四九〇

会 長 貝山 宣泰

副会長 小沢 省元

” 鈴木 敏範

” 柴田 敏夫

兼事務局長 小崎 龍雄

事務局次長 貝山 宣昭

真言宗智山派宗務所

総本山智積院法務所

〒605 京都市東山区東山七条
電話〇七五-五四一-五三六一

管 主 長 竹村 教智

宗務総長 寺務長 別所 弘因

総務部長 小沢 照禧

教学部長 岡田 昌道

法務部長 岡本 実良

教化部長 斎 隆套

出雲所長 別院執事 小宮 勝憲

臨濟宗妙心寺派

管 長 梶 浦逸外

宗務総長 江西 寛堂

総務部長 後藤 純一

教学部長 竹中 玄鼎

財務部長 梶田 泰賢

花園会本部長 原 英嶽

法務部長 渡辺 琢山

全国の仏教青年結集

二月十三日 全仏が主催

全国の各仏教青年会の代表者が、その果すべき使命について真剣に討議する「仏教青年の結集」が、来る二月十三日、東京芝の仏教伝道センター会議室を会場に、全仏の主催のもとに開催される。

今や、エネルギー危機がとうとう日常生活をおびやかすまでに至り、節約の精神が強調されている。高度経済成長の夢は破れ猪想の転換が要求されている今日、仏教徒の使命はいよいよ重要な度を加えている。この危機に直面して、仏教徒は如何に対処していくべきか真剣に思索されるべきである。

この時にあたり、過日の第二十一回全日本仏教徒会議池上本門寺大会の第五部

会において議決された「仏教青年の結集を計ろう」という命題にもとづき、全仏は全国の仏教青年会の代表者を一堂に会して討議する機会を持つことになった。

各宗派、各地域、各大学等の仏教青年会の特色を各々尊重しつつ、なおかつ、それを超えて親尊の心を心とする青年仏教徒の自覚のもとに、青年仏教徒の果すべき使命について、あるいは全一仏教運動の推進について、ともに腹臍なく率直に語りあう。

この会議が有意義に、大きな願いを實現する第一歩を踏み出す契機となることが期待されている。

◎日時 二月十三日（水）午前十時から

時々歳々

香雪（宮本 正尊）

ほのぼのと富士ヒマラヤの初日影

行く春や道惜しむ人の笠に暮れ

一八や蒼風さそう朝まだき

青葉かげ六体地蔵立ちませり

一山の懐深し遠蛙

海風や一つに薫る西東

短夜や月惜しみつゝ戸を閉す

柿熟れて蓮如の里は報恩講

創業の汗ぬぐひつゝ落葉踏む

よき古き道新しく若葉して

ぼつぼつと実るものあり八十路きて

全仏新年懇親会

十七日、東京で

本会加盟の各団体役員ならびに専門委員等関係者諸師が一堂に会して新年を寿ぐとともに、賀詞交換を行い、あわせて全仏の前進を誓う恒例の新年懇親会は、本年は東京を会場に左記のとおり開催される。

日時 一月十七日（木）午後四時半
会場 東京プリンスホテル
会費 四千元

午後四時

◎場所 仏教伝道センター内会議室

東京都港区芝四一三十四

電話 四五四一五八五一

国電田町駅下車徒歩五分

◎基調講演 東洋大教授金岡秀友先生

◎参加資格 各宗派仏青、地区仏青、大

学仏青の会員、および全仏の推薦する仏教青年

◎参加費 無料

仏教タイムス創刊千号を祝う

現在宗教界の新聞として、業界の雄である仏教タイムス社は、広島に幣光浩然氏を社主に創業して三十年、このたび一千号創刊を記念して神田学士会館に仏教界の有識者を集めて講演会及び披露パーティを催した。

謹賀新年

孝道 教団

孝道山本仏殿

統理・大僧正

仏教哲学博士（スリランカ）
名誉哲学博士（中華民国）

岡野 正道

副統理・権大僧正

名誉哲学博士（中華民国）

岡野 貴美子

〒221 横浜市神奈川区孝道山
〇四五（43）一一〇一一

孝道教団東北別院

貫主・大僧正

岡野 正道

山形市小白川町釜山

昭和49年1月1日

花まつりに統一ポスターを



るので、本年も同
ポスターを各県都
市仏あるいは各寺
院、幼稚園等にて
広くご利用して頂
くよう左記要領に
て頒布します。
曜日あるいは気
候の関係から花ま
つりの開催日はま
ちまちであるが、
近年だんだん忘れ
られつつある「四

仏教界で最もポピュラーな年中行事として全国で盛大に繰り広げられている花まつりを、さらに一般大衆に浸透せしめるために、全仏では全国的規模で統一ポスターの普及を推進しているが、毎年大変好評を博し多数団体にご利用頂いてい

月八日」を特に強調する意図で、ポスター上部に「四日八日はお釈迦さまのお誕生日」と刷り込んである。ポスターは荘厳味豊かなカラフルなものである。
◎一枚五十円(二十部以上は送料本会負担)

事務局録事 (十二月)

- 一日 ブティストクラブ成道会出席
- 一日 曹洞宗法要団壮行会出席
- 三日 全仏法要団出発
- 四日 税制特別委員会
- 五日 佐藤会長渡印壮行
- 〃 大蔵省主税局へ陳情
- 〃 韓国仏教会文理事長来局
- 六日 岩手県仏教会訪問
- 八日 日蓮宗、天台宗法要団出発見送
- 〃 東仏成道会出席
- 十四日 佐藤会長帰国
- 十六日 全仏法要団帰国
- 十七日 局内会議
- 〃 パキスタン観光大臣来局
- 十九日 常務理事会(於京都)
- 〃 宗務総長会(〃)
- 二十五日 事務納め

昭和四十九年一月一日発行
一月号 第一九四号

発行人 麻布照海
編集人 柳了堅

発行所 財団法人

故鈴木大拙博士ご奉安の涅槃像の美術複製
涅槃図を頒布
ねはん会を盛んにするために

写真は「涅槃図」の部分
—板木は江戸中期のもの—



頒布価格 1幅 15,000円(解説付 荷送共)
寸法 ねはん図 60cm×105cm
仮表装出来上り 82cm×170cm

ここにお頒ちする涅槃図は、財団法人松ヶ岡文庫所蔵の板木によって摺ったものを、上質の烏ノ子紙に原寸大でオフセット印刷し、仮表装したものです。この文庫は故鈴木大拙先生の創立にかかり、この板木は先生の多数の蔵書と共に「ねはん会を盛んにしたい」という願いをこめて、御存命中に寄進されたものです。これだけ大きい板木を摺ることは今日では不可能に近いので、今回、松ヶ岡文庫のご好意により三百幅だけ限定頒布することになりました。

株式会社 **ブティスト社**
〒104 東京都中央区湊二ノ十二ノ十五 一世館ビル
電話(〇三)五五一一〇九四・〇〇九五
振替 東京 一七一三一一九番

日本の宗教界の全貌を収めたわが国初の書
宗教界が待望の書 **日本宗教大鑑** B5版・豪華本 価二一、〇〇〇円
カラー 24頁 (送共)

カラキ 絵はがき **インドの仏蹟** 第一集、六集 一組 九百円(送共)
書店には出しませんので直接発行所に御申込下さい
池上大会採用

全日本仏教会
東京都台東区西浅草一ノ五ノ五(東京本願寺内)
電話(〇三)八四〇六三三・四一〇三